

第1回八女市立図書館本館整備基本計画検討委員会議事録

日時 令和5年8月2日(水) 18:00~20:30

会場 八女市役所2階205会議室

1 委嘱書交付

2 教育長あいさつ

こんばんは。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

7月10日未明から降り続けた雨は、皆さんの近くはいかがだったでしょうか。久留米市、特に田主丸では大変な災害が発生していますが、八女市でも上陽町を中心に多くの被害が伝えられ、上陽町では孤立集落が3箇所くらい発生しました。7月24日現在で八女市では約43億円、農作物だけでも6千万円の被害が出ています。1日も早い復旧に向けて取り組んでまいりたいところです。

さて、八女市立図書館の歴史ですが、明治36年に木下氏、大内氏、樋口氏の3名により県内3番目の図書館が建設され、明治38年に八女郡図書館が開館しました。昭和27年に八女郡福島町外23町村で八女図書館組合を創立し、八女郡図書館を受けついで八女図書館が誕生しました。昭和47年に八女図書館組合は解散となり、おりなす八女の前身として新築された八女市町村会館の1階に八女市立図書館ができました。それから今年51年目、八女郡図書館開館からは118年目となります。

現在、八女市では旧八女市に本館、旧町村に1館ずつ分館を配置しています。そして現在の図書館本館は開館から37年が経過しています。時代と共に図書館に期待されることも変化し、市民ニーズも変化し、課題も出てきました。人と人、人と地域をつなぐ様々な機会をつくり、子どもたちも含めた多くの市民が集い、学ぶ公共機関が求められています。安部龍太郎さんの言葉をお借りすると「図書館は民主主義の学校である」ということです。まさしく私は図書館は市民の文化度を表すものではないかと思っています。

改めまして、委員の9名の皆さま、公私ともご多忙の中、委員を引き受けてくださりありがとうございます。ハードソフト両面から忌憚のないご意見をいただき、あるべき図書館像をつくっていただきたいと思います。本日からの協議、どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員自己紹介

各委員自己紹介。続いて事務局、委託業者の順にあいさつ

— 教育長 公務により退席 —

4 八女市立図書館本館整備基本計画検討委員会について

【資料1】「基本計画検討委員会設置要綱」と「委員会の公開等について」の説明（事務局）

5 正副委員長選出・あいさつ

委員長：下川委員

副委員長：梅野智美委員

6 議事

(1) 八女市の基本方針について

【資料3】「八女市の基本方針について」の説明（事務局）

○質疑、意見については以下のとおり

<委員>

『「まちの記録」を増やそう』が一番良いと思いました。本だけではなく、まちのいろんな記録を保存する場所として位置付けようということだと認識しています。

<事務局>

今の公共図書館は昔と比べてずいぶんと変わってきています。図書館はあらゆる情報を扱うところだと思うので、記録を残すことも市の図書館の役割として取り組んでいきたいと考えています。

<委員長>

記録を記憶する、まちの記録を増やすということはまちの情報発信でもあり、図書館にとって大きな柱になると思います。

<委員>

まちなみ保存に関わっていて、古い写真をデータ化しているのですが、それを残していきたいと考えています。数人とデータを分け合っていますが、本来は公的な機関で保存してもらうのが良いと思います。郷土史に造詣の深い先生方が集められた資料の所在が分からなくなっている件など、一步踏み込んで図書館として意識していただいて、協力し合いながら進められたらと思います。

<委員>

私も同じ先生から八女の歴史を習った一人です。昔の資料がこの際全部出てきて、古い歴史に関する資料も図書館で扱えたら良いなと思います。

<事務局>

文化振興課とも連携しながら進めたいと思います。

<委員>

6つの方向性について、市民の皆さんにも覚えてもらい浸透させるには、3つくらいだと覚えやすいのではないかと？

<事務局>

具体的にかたちにしていく中で絞ることも検討していきたいと思います。

<委員>

図書館は、昔は黙って本を読むところというイメージがありましたが、今は多様化しています。話をしにきたり、絵本を読んで友達と話したり、図書館に求めているものが変わったと感じます。保護者の中には新しい図書館の姿をあまり知らない人もいます。車社会なので、車を停めるところがないと人が来ません。みなさんに知ってもらい、集える、交流するということが大事だと思います。

<委員>

6つの方向性がとても入りやすいと思います。これが全部詰まった図書館ができたら、暮らしを豊かにする図書館になると思います。子どもから老人まで、孤立している人も集えるところになると良いと思いました。

<委員>

『「いや~、助かった!」を増やそう』について、赤ちゃんへの読み聞かせをしています。コロナ以降は親子の参加が多い。たった20分でも、赤ちゃんが読み手を見て喜んでる姿を見ると、それだけで1日ひとりで育児をしているお母さんは「ありがとう」と思い、我が子が愛しく思えます。

『「はあー、ほっとする!」を増やそう』について、福島中学校の図書館にはたくさんの子どもたちが来ますが、3分の1は借りずに読みに来るだけで「本は借りなくていい」「ここにくるとホッとする」と言っています。毎日部活で忙しく、バタバタした中でホッとする場所が図書館、本を借りるだけが目的じゃなく、ちょっとリセットできる居場所としての公立図書館が重要ではないかと思っています。期待しています。

<委員>

読み聞かせに行っていましたが、当時私自身は楽しめませんでした。その時「お母さんが楽しめない子どもも楽しめないよ」と言われ、自分自身が楽しむことを意識するようになりました。

今は家にあるたくさんの絵本の中から、子どもが自分で毎日違うものを持ってきて、二人で楽しく寝る前に読んでいます。自分が小さい頃を思い出すと、図書館を利用した学生時代はありません。大人になって図書館の良さに気づきましたが、その空白の期間がない子ども時代を送ってほしいと思っています。

<委員>

障がい者の視点から言うと、なるべくバリアフリー、ユニバーサルデザインにしていきたいと思います。いつもおじいちゃんや不自由な人、子供たちがいる空間とコミュニティが実際にできればすごく良いところだなと思いました。そういう場所を目指してほしいと思います。

<事務局>

皆さんに委員として来ていただいて良かったと思っています。6つの方向性を踏まえた図書館になるように色々と意見をいただきたいのでよろしくお願いします。

(2) 今後のスケジュールについて

【資料4】「今後のスケジュールについて」の説明（委託業者）

○質疑、意見については以下のとおり

<委員>

ワークショップの日程は決まっていますか？可能であれば見学をしたいと思います。

<委託業者>

調整次第ご連絡します。

<委員長>

ワークショップは検討委員会の方も参加可能ということでしょうか？

<副委員長>

内容はどんなものになりますか？

<委託業者>

これから話す現状のところを分かりやすい形にした上で、さまざまな具体事例を説明し、八女市だったらどんな図書館が良いかをみんなでアイデアを出す内容で考えています。基本方針も踏まえな

がら、こんな体験が欲しい、こんなサービスがあると良い、というのを出していくことを想定しています。

<副委員長>

集客方法はどのようなものですか？人が集まるでしょうか？

<委託業者>

図書館や市のウェブサイト、FM八女などで呼びかける予定です。アンケートの状況を見て関心の多さを感じていますが、状況を見ながらより集まるような方法は市と相談しながら進めたいと考えています。

<委員長>

想定規模は何人くらいでしょうか？

<委託業者>

20～30人程度です。

<委員長>

ワークショップは子どもたち向けですか？

<委託業者>

年齢で分けることは想定していませんでしたが、あった方が良いでしょうか？中高生だけのテーブルを作って意見を求めたり、中高生だけの枠を作ることも可能ですが、いかがでしょうか？

<委員長>

図書館で言えば、10代になるとぐっと図書館に来る子が減ります。どういう関わりを求めるかという意味で言うと、あえて学校と協力して参加してもらうのは面白いのではないかと思います。

<委託業者>

集客の工夫が必要になりますが、市とも相談して調整します。

<委員>

ワークショップはすごく大事だと思います。アンケートで終わるともやもやすることが多いです。

実際の課題や認識していない問題を出し、本当に良いものを生むには、話さないといけないと思います。それだけでいいのかは正直わかりませんが、多様な人が集まっているいろんな意見を踏まえないといけないと思いました。

<委託業者>

人の集め方と回数を改めて相談検討して次回以降進めます。

<委員>

ワークショップという、いつも同じ顔ぶれになってしまいます。本当に図書館に来ない人の意見を取れるのか、ランダムに来てもらうなどできないと、図書館に関心のある人だけの会になってしまうのではないかと心配です。

<委託業者>

おっしゃるとおりですので、集客はしっかり検討します。

(3) 八女市の現状と課題について

【資料5】「八女市立図書館本館整備基本計画の位置付けについて」の説明（委託業者）

【資料6】「基本計画策定における前提条件の整理、現状と課題について」の説明（委託業者）

○質疑、意見については以下のとおり

<委員>

現状はわかったが、その先にあるものは何なのか？が見えたら良いと思いました。

<委託業者>

おっしゃる通りですが、今回は課題の洗い出しまでとしています。図書館が住民に何をもたらしたのかが分かりにくいのは、図書館業界の難しい課題です。何をもたらすかを委員の皆さんからもいただけると、どう整備していったら良いかを考えられると思います。

<委員>

年代別で空洞化があるように、他にも凹があるのではないかと思います。例えば利用割合の少ない年代があれば、それがなぜなのかを掘り下げる価値があると思います。前提として人が集える、たくさん来てくれることが一番大事だと思っています。地域ごとに違いがあるのか、交通データとの兼ね合いがあるのか、バイパスができたら変わるのか、なども踏まえご検討いただけたらと思います。

<委託業者>

重要な話です。データは図書館システムで年代ごとにとっていたり、地域も分かるものと分からないものがあったりしますので、市のシステムを確認して、取れるものの中で進められたらと思います。

<委託業者>

アンケートでもデータを取っていますので次回ご紹介します。

<委員>

数値化するのが難しいという話でしたが、あまり数字に引っ張られすぎると訳の分からないものになってしまうのではないかとという危惧もあります。

課題と最初の方向の関連付けがあまりないように感じたのですが、方向性を踏まえた課題が上がってきた方が、今後の話し合いの参考になるのではと思いました。

<委託業者>

数値化はおっしゃる通りです。何をもたらすのかという目標を立てて、それに対してどうするかを考えていきたいと思っています。6つの方向性と課題は今のところは分離して走っていますが、これからの分析で分かれば良いと思っています。

<事務局>

地域別、年代別、過去10年分はデータがあります。

<委員長>

八女市の場合の登録者はどういう統計でしょうか？累積統計なのかなど、整理する必要があると思います。

<事務局>

八女市は実登録者です。昨年までは5年利用がないと除籍していましたが、去年10年に延ばしました。貸出者数とエリアや年齢の掛け合わせのデータはあります。市外登録者はさほど多くないはずです。

<委員長>

同規模面積自治体との比較は初めて見ました。八女市の特徴、サービスのあり方を考える上で面白いデータ根拠になるのではと思いました。

<委員>

面積が広い自治体で、市内のどこに住んでいても新しいところに行きたいニーズはあるので、交通の便をどうよくするかという課題もあります。星野や矢部、上陽から行きたいと思った時に行ける立地、環境を提供する必要があります。

<委託業者>

交通の便は検討すべき課題です。図書館に興味がない人も含めて検討すべきなので、入れ込んでいくべき課題だと思います。資料のつくりとして課題に入れるのか、これからの方向性に入れるのかは整理していきます。ご指摘ありがとうございます。

■事例紹介

【参考資料】全国の特徴的な図書館事例紹介（委託業者）

○質疑、意見については以下のとおり

<委員長>

地域自体が生き残りをかけたコミュニティをどう維持していくかという時代の中で、まちの再開発の中に図書館を入れることで集客するなど、まちづくりの中の図書館という位置付けになっていると感じました。

図書館は借りて返すというパターンがあるのでお客さんを確保できます。それ自体は大事なことです。一方で伝統的な図書館像もあります。以前、新しい図書館を作るときに「まちづくり 人づくり 図書館づくり」というキャッチフレーズを作りましたが、人づくりの結果として集客は生まれます。

商業施設に図書館を入れるのが悪いわけではないですが、私には保守的なところがあるので、皆さんのご意見を聞きながら図書館づくりを進めたいと考えています。それは違おうだろうといったご意見はむしろ言っていただきたい。その上で八女のあるべき図書館を作っていけたら良いと思っています。

<委員>

大事なことは子どもと大人で空間を分けることでは。大人も子どもも同じエリアにあるのは目が届くという意味では良いが、子どもは時によって喜んで声を出しながら読むこともあり、分けてある方がお互いに幸せです。

どの図書館の事例も本当に素晴らしくて夢のようだと感じましたが、八女市にとって八女市にしかできない図書館をつくるべきだと思います。毎月1回の読み聞かせでは「温故知新」をテーマに、八女の昔話とJAXAの実験や宇宙の話をしています。八女市にはJAXA宇宙少年団があります。はやぶさをつくった和田さんが八女にいらしたことをきっかけに九州大学名誉教授・久留米工業大学教授の麻生先生とのご縁ができたことがきっかけです。麻生先生も八女に協力してくれると言っていま

す。八女市にしかない図書館を考えたときに、宇宙科学も取り入れた温故知新的な図書館だと良いなと思いました。

また、伊藤忠商事から本を2～3年に一度寄付してもらっていて、今は980冊になっています。JAXAから宇宙食の提供などもいただいています。今後そのようなことも、新しい図書館に取り入れられるのではと思います。

<委員>

熊本県菊池市の中央図書館は、歴史人物をキャラクター化したものを置いて、昔の写真のデジタルアーカイブをサイネージで見られるようにしていました。菊池川をモチーフにして回遊しやすいつくりにもなっています。参考になると思いました。

<委員>

市民が誰でも印刷できたり、映像を作ったりと制作をサポートする機能があれば良いなと思いました。市民が本とか情報を消費するだけではなく、何かを生み出し、それを下支えする図書館だったら面白いと思います。人が来て面白い、地に足がついた、地域の文化に根ざしていたら、人も集まるし、最終的に本につながり、結果的に利用が増えると思います。

<委員>

自分の子どもが小中学校になったときに、分からないことがあったら図書館に行けば解決できるというのを教えてあげたい。子どもが自分で選ぶ体験ができる図書館が良いと思いました。

(4) その他

事務局から、第2回の日程は10月2日(月)で提案

時期になったら文書で案内予定

閉会